

ガミガミ言わずに 自走する子が育つ、 10歳までの「3つの仕込み」

あとで後悔しないための、
親子の絆と学力を伸ばすアプローチ

鈴木詩織
おうち受験コーチング代表



毎日「早くしなさい！」と怒り続けることに疲れていませんか？



子どもを愛しているからこそ湧き上がる「焦り」と「不安」。
でも、無理にやらせる流れ作業では、子どもの本当の力は育ちません。

タイムリミットは「10歳の壁」。脳の発達とともに親の言葉は届かなくなります



10歳以降は「劣等感」や「反抗心」が芽生えやすい時期。
だからこそ、低学年のうちに「自走する心の土台」を完成させる必要があります。

ドリルをさせる前に終わらせておくべき「3つの仕込み」があります

①「学び体質」の育成

詰め込みではなく、論理的思考の土台を作る。

②「コーチング」への移行

指示命令（ティーチング）を捨てる。

③「エニアグラム」の活用

子どもの性格別の「地雷」を回避する。

自走する子

これら3つの仕込みが整うことで、ガミガミ言わなくても子どもは自らのエンジンで走り始めます。

「勉強しなさい」という言葉は、実は子どもの「自律学習」を破壊しています

詰め込み学習の罠



意味もわからず詰め込む学習は、
4年生以降の難化する学習で必ず失速します。

調査データからの知見



調査データによると、
親が「しっかり勉強
するように言ってい
た」家庭ほど、
子どもが自律的に
学習する意欲
(親に言われなくても
勉強する姿勢)が
減退することが
分かっています。

仕込み①：いきなり学習ではなく、「学び体質」の土台を育てる3ステップ

Step 1: 承認



ありのままを認める。
他者と比較せず、安心できる
環境(安全基地)を作る。

Step 2: 探究



子どもの「好き」を
一緒に深める。
日常の中で「なぜ？」
「どうして？」を一緒に楽しむ。

Step 3: 学びの杭打ち



興味が育ってから、
教科学習(ドリルや読み書き)
へ繋げる。
「勉強は楽しい」という
感覚のインプット。

理想の「受験生像」を押し付けると、子どもは勉強への熱意を失います

理想の受験生像



- 親が一番覚えている自分の受験は「大学受験」や「高校受験」。
- その頃の「自ら机に向かう」姿を、そのまま小学生に当てはめるのは「無理ゲー」です。
- スケジュール管理から宿題の把握まで、すべてを小学生に丸投げせず、親の役割を変える必要があります。



仕込み②: 「ティーチング」を捨て、 隣を歩く「コーチング」へ移行する

ティーチング

アプローチ
答えを与える。
迅速に問題を解決する。

親の立ち位置
「先生」として
前を歩く、引っ張る。



声かけの例

「次忘れないように、
ノートにメモしておきなさい！」

コーチング

アプローチ
問いを投げて引き出す。
自分で考える力を養う。

親の立ち位置
「伴走者」として
隣を歩く、支える。



声かけの例

「なるほど。じゃあ、次忘れないた
めにはどうすればいいと思う？」

明日からできる、子どもの可能性を引き出す3つのコーチング・スキル



1. 傾聴

受容とオウム返し。
「遊んでいたかったんだね」と
子どもの言葉をそのまま
受け止め、思考を整理させる。



2. 承認

結果だけでなく存在を認める。
「100点すごいね！」（結果）だ
けでなく、「今日も元気に起き
てきたね」（存在）を伝える。

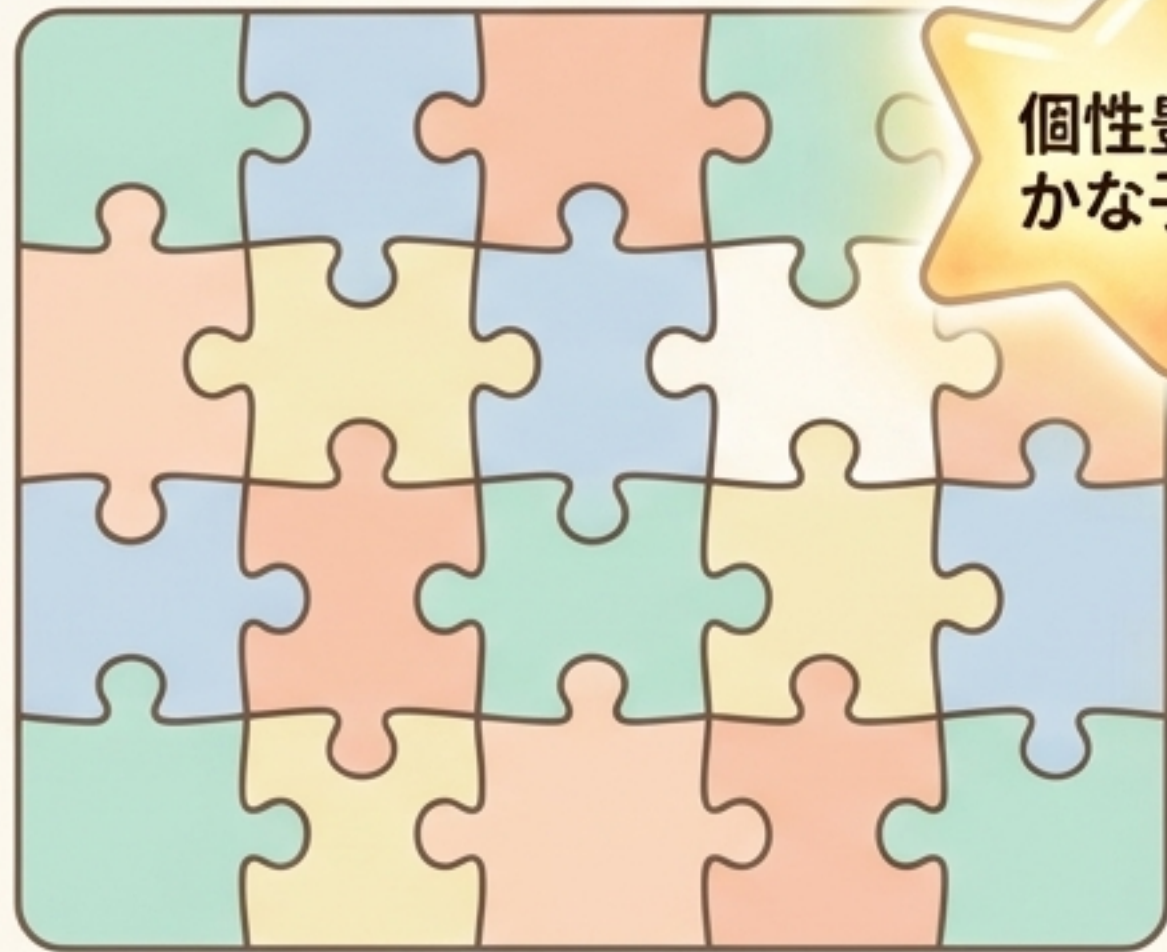


3. 質問

オープン・クエスチョンを使う。
「宿題やった？」（Yes/No）では
なく、「今日のご飯は何が食べた
い？」と多様な答えを引き出す。

良かれと思った「親のアドバイス」が、 子どもの地雷になっているかもしれません

親の理想の型



個性豊
かな子



親が「正しい」「こうあるべき」と信じている価値観は、親自身の性格タイプに基づいています。



「負けちゃダメ！」という言葉で燃える子もいれば、萎縮して心が折れる子もいます。



「みんなと同じはつまらない」という言葉にワクワクする子もいれば、不安になる子もいます。

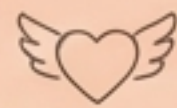
子どもの個性を無視したサポートは、
子どもの自己防衛本能を引き出し、成長の芽を潰してしまいます。

仕込み③：親の「エニアグラム・タイプ」が 引き起こす9つのNG対応



Type 1 (戦士)

「ミスは許されない」と完璧を求め、子どもが失敗を恐れるようになる。



Type 2 (ヒーラー)

「手伝おうか？」と過度に世話を焼き、子どもの自主性を奪う。



Type 3 (ヒーロー)

「○○ちゃんはもっとできてる」と結果を比較し、劣等感を植え付ける。



Type 4 (魔法使い)

感情的に接してしまい、子どもの心が不安定になる。



Type 5 (賢者)

「自分で考えなさい」と距離を置きすぎ、孤独感を与える。



Type 6 (聖職者)

「このままじゃ大丈夫？」と不安を伝染させ、自信を奪う。



Type 7 (ハンター)

「なんとかなるよ」と楽観視しすぎ、準備不足を招く。



Type 8 (ボス)

「こうしなさい」と強く押し付け、主体性をなくす。



Type 9 (仙人)

「好きにしなさい」と放任しすぎ、モチベーションを下げる。

子どもの個性に合わせた「響く声かけ」で、 才能の芽を伸ばす



Case Study：タイプ4（夢見る魔法使い） の子どもの場合

🌿 特徴：独自の視点や感受性を持ち、自己表現を大切にする。

✖ NGな声かけ：「みんなと同じようにやりなさい」「普通はこうでしょ」

✨ やる気を引き出す魔法の言葉：
1. 「君のアイデアや考えは、とても特別だよ」
2. 「他の人とは違う個性を持っているんだね」
3. 「独自のやり方で進めていいよ」

相手のタイプを知れば、無駄な衝突がなくなり、
親の愛が真っ直ぐに届くようになります。

すべての土台となる最大の秘訣は、 「お母さんのご機嫌」です



「子どもは、家のドアを開けて中に入った瞬間、お母さんの機嫌がいかどうか分かるんです」 — 安浪京子先生

- どれだけ優れた学習ドリルや声かけのテクニックを使っても、親が不機嫌でピリピリしていれば、子どもは勉強から逃げ出します。
- 「テストが悪くても、じゃあ次頑張ろうと前を向ける」「親が朗らかで、細かなことを気しない」。この安心感（安全基地）こそが、最高の教育環境です。

3つの仕込みが重なると、子どもは 自分のエンジンで走り始めます



学び体質

「好き・知りたい」の土台
が学びを面白くする。



性格の理解

個性を認めることで
「自己肯定感」が最大化する。

自走のサイクル



コーチング

問いかけにより
「自分で考える力」が育つ。



親はガミガミ言う「管理者」から、
笑顔で見守る「一番のサポーター」へ。



あなたのお子さんにぴったりの 「自走の仕組み」を一緒に見つけませんか？



【動画視聴者限定・無料】

「うちの子は何タイプ？」

「具体的に、明日からどう声をかければいい？」

10歳になる前の貴重な今、あなたのご家庭に最適な教育戦略を立てる「個別カウンセリング」を【動画視聴者限定・無料】で実施します。

無料個別カウンセリングに申し込む

お子さんの才能を伸ばす鍵は、今のあなたの「関わり方」にあります。まずは、お気軽にお話ししましょう。